

# 牧羊ひろば



但馬福音教会 教会学校



献堂式 (1972.11.23)

## ●現状と前史

教会学校出席者数は週報記録によると、二〇一〇年11月21日付、男2名、女2名、計4名を以て終わり、以後「なし」と記録されます。子ども祝福式、毎日曜の礼拝を通しての子どもへの働きかけが3年間続きました。

二〇一五年の三輪牧師着任後、教会学校の再開を祈りつつも残念ながら「なし」で来ています。しかし、毎日曜ではなくても出来る所から、子どもたちの信仰教育、福音伝道に取り組んで行きたいとの志を立てて、「子ども大会」というかたちで3年間続けて来ました。今の所、夏と冬（クリスマス）の年2回開催となっていて、ネーミングはイベント毎に変えながら、牧師、CS教師、各会メンバーが協力して行っています。

現在、但馬福音教会は創立65周年、献堂45周年となりました。50周年記念誌には、現会堂の献堂式写真（一九七二年11月23日）が掲載され、当時の主管牧師の岩田扶美二先生と共に25名ほどの子どもたちの姿があります。会堂地の校区となる五莊このしょう小学校の生徒たちが中心かと思えます。記念誌に寄稿された岩田先生は「高木先生の頃に来ていた教会学校生徒が来なくなつたので、特伝に便乗して子ども大会を開いたところ、大勢の子供たちが集まってきて」と記しておられます。期せずして45年後の今、再び「子ども大会」による児童への伝道と教育が進められていることに神様の摂理を覚えます。

## ●聖霊の流れの中で

手元の古い「牧羊者」(一九七二年12月号)に同年9月15日兵庫教区CS教師研修会の開会礼拝にて岩田先生がヨハネ6章より「現代は肉体の食物は十分であるが、霊的の食物の必要が迫られている時である、神はそれが真に必要なであるならば、奇蹟を行なっても求めに応じて下さる。あなたがたの手で食物を与えなさい」とメッセージ



紙芝居・夏期学校



野菜を切ります

ジされたことが報告されています。私がまだ2才の時すでに教会の先輩がみ言葉に立って、CSに臨んでおられたことに改めて感動を覚えた次第です。昭和の高度成長期よりもさらに現代社会は物質的に豊かとなり、肉体的食物については「いかに食べないか」という節制すら求められるような時代にあつて、霊的の食物を大人にも子どもにも提供することが出来る教会となることを願われます。このように、但馬福音教会に流れている霊の恵み

を踏まえて「子ども大会」のご紹介をさせていただきたいと思います。

子ども大会の目的としては、

一・地域に開かれた教会として親しみを持っていただける機会とすること。

二・クリスチャンホームの子どもが楽しく、CSや礼拝が出席出来るきっかけとなること。  
が挙げられます。



カレーライスおいしいね

## ●夏休み子ども夏期学校

第1回二〇一五年8月1日(土)開催。出席者30名(男子7、女子9、大人14)。午前10時から小礼拝にて、賛美、ゲーム、紙芝居、ショートメッセージ、祈祷を行いました。続いてカレーライス作りを婦人会の協力を得て行い、完成したカレーをランチタイムでいただきました。午後1時から工作タイムにて、うちわ作り、ペンシルバロン作りを行い、その後、おやつタイムの手作りデザート



うちわ作り

トをいただきました。午後3時半から「おわりのとき」にて、礼拝で歌った曲で再び賛美し、初めての子にもおぼえられるようにしました。夏期学校全体は「礼拝に始まり、礼拝に終わる」という構成で、まことの神様を知り、そのお方に心を向ける（祈る）ことの大切さを教えるようになっていきます。地域の神社による祭があり、偶像礼拝に流れやすい但馬地方で暮らす子どもたちが、聖書の真理とキリストの福音について知らされ、少しずつでも回心に向かって成長する姿に励まされます。

### ●工夫と展望

教会について子どもたちに楽しい印象を持つてもらえるように、トンネル状のテントハウスや大きなクマのぬいぐるみを置いています。奉仕に来て下さる教会員も元気に遊ぶ子どもたちとの交流で笑顔が増えます。年毎に第2回、第3回とほぼ同じプログラムでこの「夏休み子ども夏期学校」は継続されて来ました。

単に子どもたちを集めるだけでなく、教会内外からの奉仕者、父兄、といった方々のご協力を得ている所に「神の国」の広がりを見る思いがします。



遊ぶ子どもたち

### ●子どもクリスマス会

第1回二〇一五年12月12日（土）開催。出席者29名（男子6、女子8、大人15）。午後1時半から小礼拝、続いてクッキー作りを行いました。焼き上がりを待つ間、クリスマスツリー飾りつけ、ゲームをして、午後3時からおやつタイムで飲み物、クッキー、チョコレートフォンデュをいただきました。午後3時半から「おわりのとき」、こ

の日何度目かの「きよしこのよる」を賛美し、祈禱を以て終わりました。帰りにクリスマスプレゼント（お菓子の詰め合わせとみ言葉カード）を受け取った子どもたちの笑顔に私たちの心も温かくなります。夏期学校と同じく年毎に、第2回、第3回と継続されています。



紙芝居・クリスマス

●時がよくても悪くても

このような「子ども大会」への出席者は回によって増減します。しかし、より多くの人数を追うというのではなく、神様から託された使命として「御言を宣べ伝えなさい。時がよくても悪くても」（Ⅱテモテ4・2）とあるように、私たちは牧師もCS教師も各会メンバーも一致協力して、福音の奉仕に励みたいと思います。



クッキー作り

## ●今も在りや

私たちが着任後初めてのクリスマス記念礼拝、祝会が終った日曜日午後、子どもさんを数人連れた男性の方が会堂の前を通られました。挨拶に始まり話をしてみると岩田扶美二先生の時代にCSへ皆勤で出席されていたかつての生徒で、北海道から帰省されたとのことでした。ノンクリスチャンでありながらも「みことばカード」は持つておられ、岩田先生との年賀状が続いておられるそうです。玄関から会堂内を見て懐かしそうに「昔と同じですね」と言われました。時が過ぎ大人であり父親になったかつてのCS生徒の中に、未だ神のことばは力を持つて臨んでいることを覚えて御名をあげました。

先日夕暮れ時、会堂近くを歩いていると「オーツ」と私に呼びかける声、よく見ると子ども大会に来た男の子でした。言葉を交わし、別れた後、このようなキリストを知らない地域の子どもたちの上に救いが成就して欲しいと心から願いました。

人間的にはたとえ小さな働きであったとしても、全能の主に期待しつつ、兵庫県北、但馬の地にて忠実に「昔と同じ」福音を私たちは倦まずたゆまず宣べ伝えて行き

たいと思います。

「村の小さき教会 今もそこに在りや  
はるか離れ住みても 汝<sup>なれ</sup>を忘るる日なし」

新聖歌423より

(三輪正見)



雪の日の教会